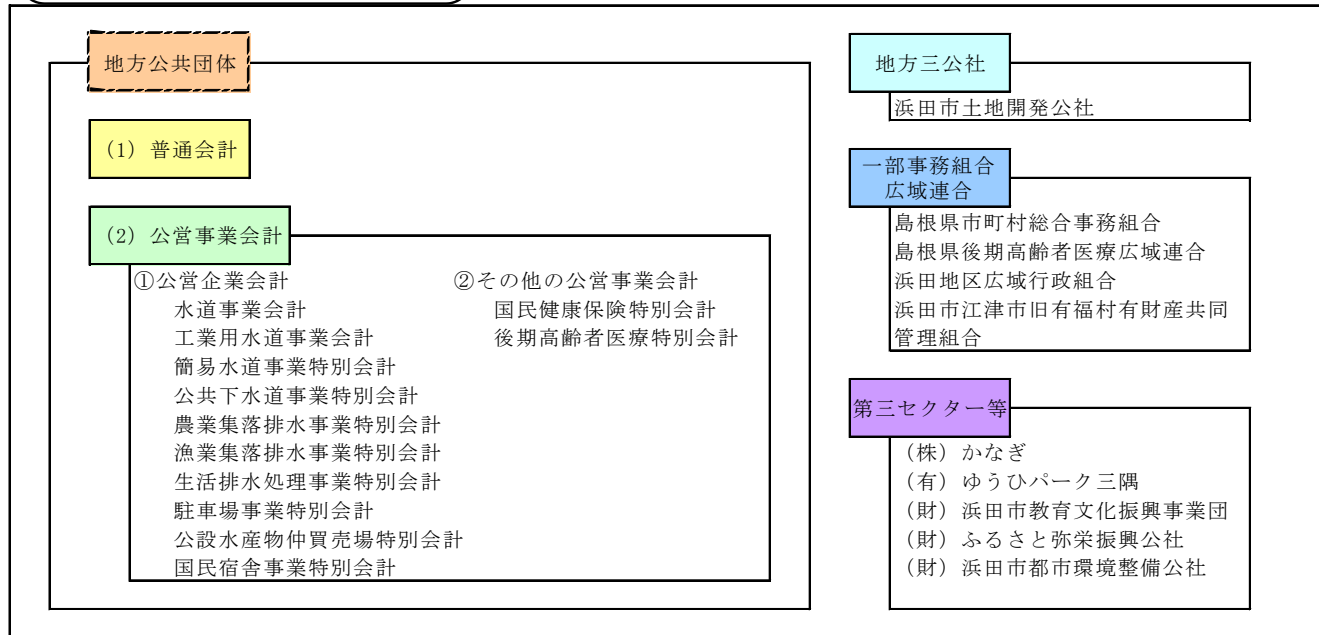


連結財務書類とは

連結財務書類とは、普通会計のほかに、浜田市を構成する企業会計、その他の特別会計や浜田市と連携協力して行政サービスを実施する関係団体・法人を一つの行政サービス実施主体とみなして作成する財務書類のことであります。

浜田市の連結の範囲



(1) 連結貸借対照表

浜田市の平成23年度の連結貸借対照表は、次のとおりです。普通会計単体に対して、資産が585億円増加し、2,303億円となります。負債は280億円増加し、855億円となります。純資産は305億円増加し、1,448億円となります。

| 借方 | 貸方 |
|---|--|
| <資産の部> | <負債の部> |
| 浜田市と連結対象団体が所有し、行政サービス提供に利用される財産、売却可能な財産及び将来回収する資産など (内訳) | 将来世代の負担で返済する債務 地方債や将来支払われる職員の退職金など |
| 公共資産 道路・公園・庁舎など (水道事業の管渠などを合算) | 負債合計 855億円 |
| 2,074億円 | <純資産の部> |
| 投資等 基金・貸付金・出資金など | 国または県の負担及び現世代・過去世代が既に負担した分 |
| 140億円 | 純資産合計 1,448億円 |
| 流動資産 現金・財政調整基金など うち資金 73.6億円 | 負債及び純資産合計 2,303億円 |
| 89億円 | |
| 資産合計 2,303億円 | |

(4) 連結資金収支計算書

連結資金収支計算書は、次のとおりです。
普通会計単体に対比、経常的収支額が15.6億円増加し、公共資産整備収支額が3.0億円減少し、投資・財務的収支額が10.1億円減少します。
期末資金残高については、69.8億円増加し、73.6億円になります。なお、連結財務書類の資金とは、普通会計における現金預金(流動資産)です。

期首(平成22年度末) 資金残高 72.4億円

経常的収支 91.9億円
公共資産整備収支 △11.5億円
投資・財務的収支 △79.2億円
繰上充用金増減額他 △ 0億円

期末(平成23年度末) 資金残高 73.6億円

(3) 連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書は、次のとおりです。
普通会計単体に対して、財源の調達は84億円増加します。
純資産残高は、305億円増加して1,448億円になります。

期首(平成22年度末) 純資産残高 1,455億円

当期変動高 △7億円
(内訳)
純経常行政コスト △378億円
財源の調達 372億円
(うち地方税 75億円)
(うち地方交付税 123億円)
(うち国県補助金 153億円)
その他 △1億円

期末(平成23年度末) 純資産残高 1,448億円

(2) 連結行政コスト計算書

連結行政コスト計算書は、次のとおりです。
普通会計単体に対して、「人にかかるコスト」は11億円、「物にかかるコスト」は37億円、「移転支出的コスト」は171億円、「その他のコスト」は14億円それぞれ増加した結果、経常行政コストは233億円増加し、531億円になります。
一方で、経常収益は142億円増加し、153億円になります。その結果、純経常行政コストは91億円増加し、378億円になります。

経常行政コスト(A) 531億円

- (内訳)
- ・人にかかるコスト 72億円
職員の給与・退職手当など
 - ・物にかかるコスト 138億円
光熱水費・修繕費・減価償却費など
 - ・移転支出的コスト 299億円
社会保障給付・各種団体への補助金・他会計への繰出金など
 - ・その他のコスト 22億円
地方債の利子など

経常行政収益(B) 153億円

施設の使用料や手数料など、行政サービス提供の対価として得られた財源です。

純経常行政コスト 378億円

(A) - (B)
経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。